



ぴよんちゃん通信



福崎町社会福祉協議会
令和2年8・9月号

長い梅雨が明けたら、夏日の連続。じっとしていても、汗が出てきます。大人は「暑い、暑い！」と口にしてしまいますが、子どもたちは帽子の下から汗を流しながらも、お友だちのいるところに笑顔で駆けていきます。コロナ休業明けのニュースで、インタビューを受ける小学生たちのほとんどが、「友だちに会えてうれしい。」「もっと、友だちと遊びたい。」と言っていました。大人たちは、勉強のことを話題にし、問題にしていますが、当の本人たちは、この環境の中で奪われているものの一番は、「友だちと遊べないこと」だと訴えています。友だちと遊び、そして勉強するというのが実感でしょう。【友だちと遊ぶ】というのは、子どもの心身の健康な発達にとって欠くことのできない必須条件です。遊びを通して身につく、解放されたのびのびとした精神と、忍耐強く頑張れる体力がなければ、主体的な学びを得ることはできません。小学生以上の子どもたちにとって、「教育を受ける権利」と同じくらい「友だちと遊ぶ時間の確保」が大切だと子どもたちは教えてくれました。ところで、乳幼児にとっての「保育・子育て支援を受ける権利」はどうなっていたでしょうか。あまり話題にならなかったように思います。むしろ、この時期、この状況で、日本中で乳幼児は「厄介者」扱いされていましたね。家の中で騒ぐ、落ち着かない、「テレワーク」中、子どもが絡んでくるので、集中して仕事ができない、と。小さい子どもでも、大人の真剣さから何かしら受け止めることはできます。新しいルールを守り、がまんすることなど、子どもなりの対応力も備わっています。そのような子どもの対応力を信じ、乳幼児の「保育・子育て支援を受ける権利」をもっと大事だと考え、環境の整備に大人は努力しなければならないと思います。小さい子どもにとっては、インタビューの小学生以上に「友だちと遊ぶ」ことでの学びが、育ちにとって必須だからです。乳幼児は、オンラインとタブレットの個別の教育では学びにかぎりがあります。偏ります。「子どもは子どもから」見て学びます。「整えられた、安心できる環境の中で、先生や保護者に見守られ、場所にも人にも慣れていき、持ち前の知的好奇心で、いろいろなことを学んでいきます。この状況の中で出来る、「遊びの環境」つまり、先生や保護者に見守られて、公園で、園庭で遊ぶ環境を保育・子育て支援に関わる誰もが大切に考え、人が人から学ぶという状況を努力して準備しなければならないと思っています。皆さん、いろいろな、子育て支援の場を信頼して頼ってください。そして、コロナ後は「貧困や病気など人生における困難は、本人の努力不足とみてしまう自己責任論」が強調される『元の社会』に戻るのではなく、『誰も完ぺきな人はいないんだよ』という原点から始まる、もっともっとやさしい社会をみんなで目指したいですね。(げ・ん・きNo.180 参考に)

トランポリンと森のひろば (第2体育館とスポーツ公園) 10:00～ 予約なし

- * 日時：8月7日、21日、28日、9月4日、11日、18日、25日(金)
- * 準備：お茶、タオル、着替えなど

親子クッキング

- * 10月2日(金)の「お弁当バイキング」は、コロナ感染予防の観点から、今年度は中止とします。代わりに手作りおやつ一品程度の提供を考えています。ご了承ください。

☆スポーツ公園で、絶滅危惧種に指定されている、貴重な昆虫『ニッポンハナダカバチ』が見られます。柔らかい砂地に巣穴を掘り、幼虫のえさとなるハエの仲間を獲物として運び込んで産卵し、卵がかえった後も、幼虫の成長に合わせて獲物を運び入れ、子育てをする珍しい習性の狩りバチです。立て看板を見て、蜂の習性を知った子どもたちは、巣穴をいじらずそっと見ていました。優しいこと！